

議会改革推進特別委員会 作業部会A【第1回報告書】

日時：2025年12月15日（月）15時～

出席者：内藤委員長、太田委員、宮池委員、佐野委員、白川委員、尾崎委員

【項目①：予算と決算の連動について、項目⑩：議会からの予算要求の仕組み化について】

※参考資料 他都市参考資料（四日市市議会、尼崎市議会）

○参考資料として、議会事務局からは他市事例として、尼崎市議会、四日市市議会のホームページより抜粋いただいた事例を紹介。太田委員より、四日市市議会事務局が作成した決算審査と予算審査を連動させる政策サイクルに関するレポートを共有した。

○決算審査の評価については、「事業評価」と「施策評価」の両面から議論する必要がある。そこで、事業評価と施策評価のそれぞれの定義をまずは委員間で共有した上で、評価方法を今後の議論の中で理解を深めていくことが必要となる。

○1つ目の事業評価については、ミクロの視点が必要であり、内藤委員長より決算書類を審査する際の例示として、次の10項目の資料を前提とすれば、丁寧な評価につながるとの指摘があったため、今後の財政当局への働きかけが必要となる。

10項目については、①小事業名、②当初予算額、③補正予算額、④流用予算額、⑤予備費、⑥繰越明許費、⑦現計予算額、⑧執行額、⑨次年度繰越額、⑩不用額などが考えられる。

○2つ目の施策評価については、マクロの視点が必要となる。例えば、予算決算委員会が各分科会委員長の下で議員間討議を経て、執行部への提言案を作成することが考えられる。その過程で、どの項目を、どの範囲まで各委員、各会派での合意形成を図ることができるのか、討議の進め方、評価の取りまとめ方について、今後の協議が必要となる。

○今後のタイムスケジュールとして、令和8年9月定例会での予算決算委員会から試行として提言を提出、令和9年3月定例会での予算決算委員会で行政の対応状況が反映されているか確認できるよう、引き続き協議を続ける。

【項目②：補正予算における予算説明調書の作成と提出について】

- 作業部会での協議の結果、本件は早急に実施に向けて進めていくことを確認した。
また、本委員会において方針を決定後、理事者側と調整を行い、次回作業部会に出席
いただいた上で、実施に向けてのヒアリングを行う方針を確認した。

【項目⑭：委員会における議員間討議の活性化について】

- 議員間討論を実施する他市の情報収集のため、当委員会の委員を対象に大津市議会への視
察を年明け早々に実施する。
- 来年6月定例会までに議員間討論の実施に向けて取組を行っていく。

【項目⑯：3月・9月定例会において休会日を増やすことについて、予算決算委員会分科会 の開催日が重複しないよう日程調整について】

- 3月定例会の閉会日以降に検討を開始することとし、その際、補足資料（並行審査を行わ
ない場合、議案熟読の日数を2日増やした場合の各日程表）を参考に議論を行っていく。